

NEWS LETTER

発行：水資源・環境学会

NEWS LETTER No.44

2007年1月12日

2006年度 冬季研究会 文化的景観の可能性を考える 2007年3月10日(土)~11日(日)

2004年に景観法が成立し、それに関連して文化財保護法が改正されました。そのなかで文化的景観をとりあげ、「地域における人々の生活または当該地域の風土により形成された景観地で、我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの」と位置づけています。これは、今後、地域環境の保全にとって重要な意義をもつこととなりますが、それに留まらず、新たな地域の発見にも結びついていく可能性をもっています。

この文化的景観のなかでも特に重要なものを「重要文化的景観」として選定することにしていますが、2005年に滋賀県近江八幡市の水郷がその第一号として選定されました。琵琶湖沿岸に残る内湖としてはもっとも大きい西の湖とその周辺の水郷地域は、これまで生態的機能が注目されていましたが、これに加えて文化的景観という視点からもその可能性を構想していくきっかけが登場することとなりました。

そこで今回の研究会では、文化的景観の制度とその現実への適用過程を検証して、この新しい制度がもつ可能性について考えることとしました。

目次：

2006年度 冬季研究会 ご案内	1
2007年度 研究大会 ご案内	3
2007年度 夏季研究会 第一報	4
2006年度 夏季研究会 報告	4
新規加入会員案内	6
事務局からのお知らせ	6

日時：2007年3月10日(土) 13:30~17:30 シンポジウム
18:00~ 懇親会
11日(日) 9:00~ 西の湖周辺のエクスカージョン

場所：財団法人 滋賀県婦人会館研修室
滋賀県近江八幡市鷹飼町105-2 : 0748-37-3113
(県立男女共同参画センター隣、男女共同参画センターの駐車場が利用できます)

10日(土)の懇親会に参加される方、および11日(日)のエクスカージョンに参加される方は事前
下記連絡先までご連絡下さい。(いずれか一方の場合もご連絡をお願いします)

宿泊施設は、各自自由にお申込下さい。(2日目の集合場所となっていますので下記ホテルが便利です)

- ・近江八幡ステーションホテル
近江八幡市鷹飼町114-3 : 0748-37-3801
JR近江八幡駅南口より徒歩2分、次ページ地図参照

連絡先：秋山道雄(滋賀県立大学環境科学部)
TEL: 0749-28-8274 FAX: 0749-28-8344
E-mail: akiyama@ses.usp.ac.jp

スケジュール

3月10日(土) 13:30~17:30

1. 開会の辞(趣旨説明)
2. 報告 安本典夫(立命館大学): 文化的景観の法制
奈良俊哉(近江八幡市文化政策課): 近江八幡の水郷ー重要文化的景観の選定をめぐってー
北川大介(滋賀県立大学・学): 重要文化的景観の選定に至る地元の合意形成過程
3. コメント 若井郁次郎(大阪産業大学)
4. 総合討論

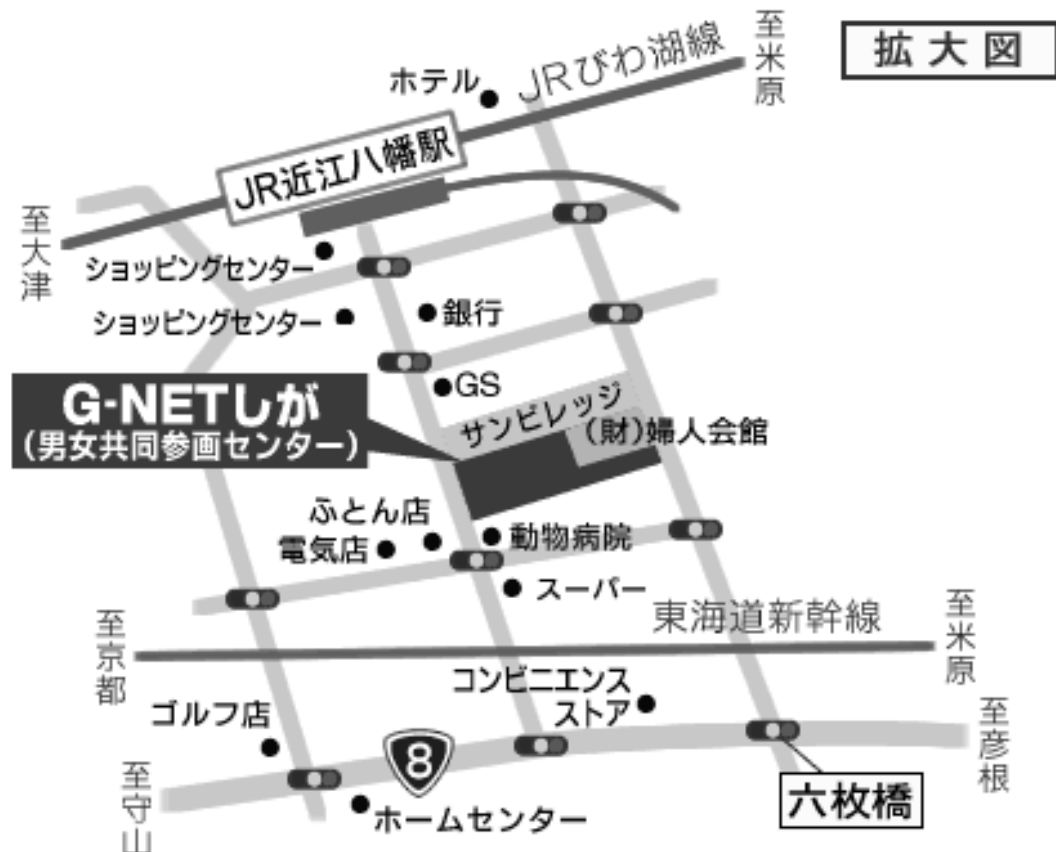
*シンポジウム終了後、午後6時から懇親会

3月11日(日) 9:00~

午前9時: 近江八幡ステーションホテル駐車場集合
西の湖とその周辺のエクスカージョン
昼食の後、解散。以後は、近江八幡のまちを自由に散策。

滋賀県婦人会館
JR近江八幡駅南口より徒歩10分
県立男女共同参画センター隣

近江八幡ステーションホテル
JR近江八幡駅南口より徒歩2分



2007年度 水資源・環境学会 研究大会のご案内

研究大会テーマ：「水源森林管理と水問題」

**研究大会開催日： 2007年6月2日（土） 研究発表
6月3日（日） 水源森林視察エクスカージョン**

生活に不可欠な水の供給源は雨であり、それを熟成させるのは森（木と土）である、と意識している都会人は意外に少ないようです。これは水に対する危機です。国連の人口推計によれば、2007年に地球上で都市に住む人口が地方のそれと同じになり、人口増の傾向より人類史上、初めて人口分布の逆転現象が起こるとされています。とすれば、渇水には敏感であっても、安全な水供給のルーツとしての水源森林に鈍感な人口が国内外で増えると予想されます。

また、国内では、河川を線的な捉え方から脱却し、流域という面的、立体的な見方で総合的に理解し、水源や水環境、森林の多様性・公益機能を再生し保全する方向に転じています。これは、長期的に見れば、投資効果が小さくなっている河川整備・ダム関連の公共投資を節減し、水浄化・利用にともなうコストを低減することにもなり、流域圏の社会的便益（費用）の改善、健全で持続力のある水循環を促すことになるといえます。

こうした背景より、雨が最も早く地上に届き、流域の頂点にある水源森林の今世紀での姿や管理を考えようと、次のように企画しました。

水は人間や生態系、風土にとってかけがえのないベースです。その水が揺籃期として過ごす水源森林をテーマに、「緑のダム」機能を中心に水循環や水資源、森林保全、森林景観など多面的な見方や考え方を総合的に論じ、新しい国土形成の戦略的視点から水源森林の保全とその機能形成の本質に迫ろうというのが、この研究大会の目指すところです。

多様な専門分野からなる本学会の会員のみなさまからの多数の応募をお待ちしています。

-
- 【大会会場】 キャンパスプラザ京都 (大学コンソーシアム京都)
〒600 - 8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル 電話 :075 - 353 - 9111
- 【大会日時】 2007年6月2日 (土)~ 3日 (日)
- 【発表応募締切】 2007年3月31日 (土)
(電子メールで「タイトル、報告者名及び400字程度の要旨」をお知らせください)
(自由論題も受け付けています)
- 【発表原稿締切?】 2007年5月16? (水)
- 【応募問合せ先】 若井 郁次郎 (大阪産業大学 人間環境学部)
電話 :072 - 875 - 3001 内線7754 / FAX :072 - 871 - 1259
E-mail : wakai@due.osaka-sandai.ac.jp
-

2007年度 夏季現地研究会第一報

テーマ：「沖縄の水と環境を考える」
 日時：2007年8月5日(日)～6日(月)
 場所：沖縄(宮古島、沖縄本島)

2007年の夏季現地研究会は「沖縄の水環境を考える」をテーマに、8月5日(日)～6日(月)、沖縄で開催する予定です。具体案は現在作成中ですので、参加を希望される方は是非ご意見、さらには情報をお寄せください。次号のニュースレターに詳細を掲載します。

研究企画委員会では、いまのところ、宮古島を中心に研究会を行い、全国的に珍しい地下ダムを見学したり、ごみのない美しい島作り、美しい海の保全に向けた取り組み、サトウキビを使用したバイオマス燃料の実証実験について学んでどうか、また一方では、沖縄本島で戦後の水資源開発の歴史を学ぶとともに、ラムサール条約に登録された漫湖の保全事業を見学したらどうか、といった意見が出ています。

いずれにせよ、学会としては予定の2日間で可能なプログラムを用意し、足りないところは日程の前後に参加者の方それぞれに補っていただくスタイルをとることになろうかと思えます。是非、夏の予定に入れていただけますようお願い申し上げます。

担当：伊藤達也(金城学院大学) E-mail: tito@kinjo-u.ac.jp、三輪信哉(大阪学院大学)

2006年度 夏季現地研究会 「東京の水環境の今昔と再生」報告

伊藤達也(金城学院大学)

2006年夏の現地研究会は、8月5日～6日にかけて「東京の水環境の今昔と再生」をテーマに実施しました。また、6日には「板橋郁夫先生傘寿祝賀論文集出版記念パーティ」を開催することができ、大変有意義な研究会となったことを報告させていただきます。以下、簡単に報告させていただきます。

8月5日(土) 両国～お台場

研究会初日の5日は、古くから水辺空間を都市の中に取り込んで発展してきた「両国」、今や東京の顔となっている新ウォーターフロントの「お台場」をメインに、その間を水上交通「隅田川クルーズ」で移動することによって、両者の対比を行いました。

参加者は約20名と、例年になく多く、メンバーは午後1時に両国駅前の「江戸東京博物館入口」に集合、そのあと、2時間かけて博物館を見学し、江戸＝東京の歴史・文化の真髄を堪能したところです。その後、「隅田川クルーズ」乗船場に行く途中、「安田庭園」を歩いていったのですが、当日は夕方から夕涼み祭りが開催されるとのことで、既にそれなりの人手で賑わっていました。浅草から両国にかけては古くからの水辺空間を代表するところなのですが、夏の強い日差しに妨げられ、なかなか博物館の外を満喫できる状況になかったのが残念でした。

午後3時30分に「隅田川クルーズ」に乗船し、約1時間の隅田川・東京湾クルーズを楽しみました。隅田川岸はかなりの高層ビルが立ち並ぶ風景となっており、パブル期から続くウォーターフロント開発による都市景観の変貌が最も強く現れたところであると思われます。川風、潮風に吹かれながら気持ちよく過ごすことができたということもできるのですが、一方で、川水の色が茶色っぽく、なんとなくウォーターフロントの「ウォーター」の部分に課題が残されているように思えてなりませんでした。

船を下りてからのお台場散歩は集合時間・場所を決めての自由行動で、参加者は自らの関心で移動されたようです。しかし、こちらも夕方まで残る強い日差しによって、多くの参加者は午後ののどかな休憩をゆっくりとホテル内の喫茶店でとったのが実際と言えるでしょう。

自由時間が終わり、参加者は新橋へ移動、夜の懇親会へと向かった次第です。

8月6日(日) 日本橋～皇居

2日目は午前10時に日本橋に集合し、江戸時代から現在にかけて、わが国の交通体系の中心である日本橋を見学しながら、お互いに情報交換を行いました。例えば、韓国のソウルでは町中にあった清溪川

(チョンゲチョン)の上を走っていた道路を撤去し、都市河川のもつ意義を改めて全世界に向けて発信していますが、日本の東京に当てはめた場合、それは間違いなく日本橋周辺で、日本橋川の上を走る高速道路の撤去といった問題に関連してきます。都市の水辺空間を考えた場合、またその上で清溪川(チョンゲチョン)の事例を好意的に見るならば、私たちは日本橋についてもっと強い意識と行動を伴うべきなのかもしれません。もちろん、このことは日本橋に限らず、大阪市内の堀、名古屋市内の堀川等、全国の都市内河川にも当てはまることです。

その後、いったん、パーティの行われるKKRホテル東京へ行き、荷物を置いた後、改めて希望者はホテルの前にある皇居へ散歩に出かけました。時間が限られていたこともあり、ゆっくりとはいきませんでした。大都会の真ん中にこれほどのまとまった緑の空間があることに改めて驚かされるとともに、本当に暑い日ざしの中ではありながら、それぞれが楽しい時間を過ごすことができたことは間違いありません。皇居はお勧めです。

8月6日(日)出版記念パーティ

12時から「板橋郁夫先生傘寿祝賀論文集出版記念パーティ」が始まりました。参加者は25名ほど、2時間という限られた時間ではありましたが、板橋郁

夫先生傘寿祝賀論文集『水資源・環境研究の現在』(成文堂)を無事、板橋先生にお渡しすることができ、出版に関わったものとして大変うれしかったことを覚えています。パーティでは出版にまつわる話、これまで板橋先生から指導を受けた時の話など、大変楽しい話が続き、お酒も入ったこともあり、出席者全員が楽しい時間を共有できたと思います。

『水資源・環境研究の現在 - 板橋郁夫先生傘寿記念 -』は26本の論文を収録し、31人が執筆したために、総ページが628pと大変大部なものになっています(値段は9,000円)。しかし、これまで水資源・環境学会に関わってこられた方の多くが執筆に関わったことにより、内容は大変充実したものとなり、さらにある意味では、水資源・環境学会の記念刊行物の性格を持っているように思えてなりません。1983年に学会が設立されていますので、学会としてこうした成果を世に問うていく試みがさらに強く求められているのではないかと思います。本書の評価を待ちながら、さらにこうした企画を積極的に立てていくことによって、学会がさらに力強く発展していくことを願うばかりです。

以上、大変簡単ですが、2006年度夏季研究会の報告とさせていただきます。

水資源・環境研究の現在 板橋郁夫先生傘寿記念』土屋正春 / 伊藤達也 編

A 水資源政策の課題

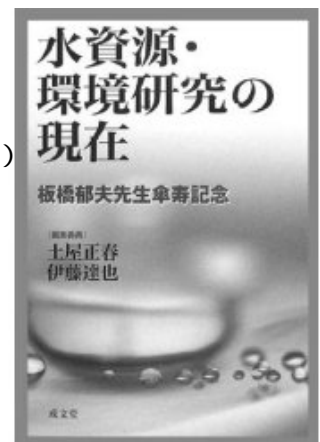
- 1 流域管理から流域ガバナンスへ (仁連孝昭)
- 2 水資源管理における住民参加と法 (松岡勝実)
- 3 農業水利研究の課題と伝統的水利にみる使い回しの論理 (池上甲一)
- 4 ダム・河口堰による水資源開発の終焉 (伊藤達也)
- 5 河川整備基本方針と河川整備計画の策定に住民の参加を (嶋津暉之)
- 6 水資源開発におけるコンフリクト構造 (若井郁次郎)
- 7 流域水管理のマネジメント (西田一雄)

B 地域からみる水問題、国境を越える水問題

- 8 東海地域における製造業のリストラクチャリングと工業用水の過剰開発 (富樫幸一)
- 9 揖斐川洪水対策と徳山ダム (在間正史)
- 10 スキー観光と生活用水・排水システム (矢嶋 巖)
- 11 東日本における酸性河川の分布 (横山俊一)
- 12 チグリス・ユーフラテス河流域国における事実上の水配分 (小林三樹)
- 13 洞庭湖区における洪水・浸水災害の変動 (毛徳化十・秋山道雄・焦春萌)
- 14 Hurricane Katrina と国家洪水保険プログラム (黒木松男)

C 都市の水管理と水源保護

- 15 水道事業のパラダイムシフト (太田 正)
- 16 地下水ビジネスと水道事業 (武藤 仁)
- 17 先進国における大都市水源林管理の比較研究 (高橋卓也)
- 18 ニューヨーク市の水源域保護政策と課題 (野村克巳)
- 19 給排水のための隣地使用权の法的根拠 (宮崎 淳)
- 20 ドイツの借家における水をめぐる法的諸問題 (藤井俊二)



次ページへつづく

前ページつづき

D 環境政策の展望

- 21 水質浄化における自然浄化機能の強化 (菅原正孝)
- 22 親水空間の形成と文化 (足立考之)
- 23 地域環境税の制定と政策的展開 (仲上健一)
- 24 予防原則と環境アセスメント (井上秀典)
- 25 主要国における林業が資源・環境に与える影響の定量化手法 (古井戸宏通・家原敏郎)
- 26 滋賀県環境こだわり農業の展開方法 (富岡昌雄)

板橋郁夫先生経歴・業績目録

発行：成文堂（2006/08/10） ISBN4-7923-0408-3 本体価格：9,000円 A5判上製

~ 新規加入会員案内 ~

個人会員

敬称略

会員名	所 属	専 門 分 野 等
川田 美紀	早稲田大学大学院人間科学研究科	地域コミュニティにおける水資源や水環境利用
真下 淑恵	高崎経済大学大学院地域政策研究科	公共事業の政策評価
長谷 博司	舞鶴市水道部	水道事業、行政と住民のパートナーシップ
松 優男	内外エンジニアリング(株)	水環境、バイオマス
鶴飼 修	滋賀県立大学環境科学部	環境コミュニティビジネス、持続可能な地域社会づくり

学会事務局からの案内と連絡

原稿募集！

学会誌「水資源・環境研究」への投稿を募っております。次号の締め切りは、**8月31日**です。投稿規程や執筆要領は学会誌の巻末にあります。投稿希望の方は、学会誌巻末の原稿送付票を添えて下記担当理事まで原稿をご送付下さい。次号の内容をさらに充実させるべく、皆さまのご投稿をお待ちしております。お問い合わせなども下記までご遠慮なく！

学会誌編集担当・事務局 野村 克巳
 連絡先(自宅) 〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町8-7-610
 電話 & F A X : 0797-34-4785 E-MAIL : k-nomzo@hi-ho.ne.jp

会費納入のお願い

年会費のお振込はお済でしょうか？早期納入のご協力をお願いいたします。

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500 滋賀県立大学環境科学部内

発行：水資源・環境学会

電話 0749-28-8278 Fax 0749-28-8348 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jawre>